

日本文学専攻分野科目

| 授業科目 | 講義題目 | 単位 | 担当教員氏名 | 曜日・講時 | 平成30年度以前入学者 読替先授業科目 |
|-------------|---------------|----|------------------------|-------------|------------------------|
| 日本文芸形成論特論Ⅰ | 『夜の寝覚』の探究 | 2 | 高橋 早苗 | 前期集中 その他 連講 | 日本文芸形成論研究演習Ⅳ |
| 日本文芸形成論特論Ⅱ | 〈歴史〉の表現史 | 2 | 佐倉 由泰 | 後期 水曜日 4 講時 | 日本文芸形成論研究演習Ⅳ |
| 日本文芸形成論特論Ⅲ | 「翻訳」の文芸学 | 2 | 仁平 政人 | 前期 水曜日 4 講時 | 日本文芸形成論研究演習Ⅲ |
| 日本文芸形成論特論Ⅳ | 日本探偵小説の形成と展開 | 2 | 押野 武志 | 前期集中 その他 連講 | 国文学特論Ⅲ |
| 日本文学総合演習Ⅰ | 日本文学史の考究とその論述 | 2 | 佐倉 由泰 仁平 政人 | 前期 火曜日 4 講時 | 国文学研究演習Ⅰ |
| 日本文学総合演習Ⅱ | 日本文学史の考究とその論述 | 2 | 佐倉 由泰 横溝 博 仁平 政人 | 後期 火曜日 4 講時 | 国文学研究演習Ⅱ |
| 日本古典文学研究演習Ⅰ | 『浜松中納言物語』の研究 | 2 | 横溝 博 | 後期 月曜日 4 講時 | 国文学特論Ⅰ |
| 日本古典文学研究演習Ⅱ | 『浜松中納言物語』の研究 | 2 | 横溝 博 | 後期 月曜日 5 講時 | 国文学特論Ⅱ |
| 日本古典文学研究演習Ⅲ | 『今昔物語集』の表現形成 | 2 | 佐倉 由泰 | 前期 木曜日 2 講時 | 日本文芸形成論研究演習Ⅴ |
| 日本古典文学研究演習Ⅳ | 『今昔物語集』の表現形成 | 2 | 佐倉 由泰 | 後期 木曜日 2 講時 | 日本文芸形成論研究演習Ⅵ |
| 日本近代文学研究演習Ⅰ | 近現代文学における「動物」 | 2 | 仁平 政人 | 前期 水曜日 2 講時 | 日本文芸形成論研究演習Ⅰ |
| 日本近代文学研究演習Ⅱ | 近現代文学における「動物」 | 2 | 仁平 政人 | 後期 水曜日 2 講時 | 日本文芸形成論研究演習Ⅱ |

科目名：日本文学形成論特論Ⅰ／ Study of Formation of Japanese Literature(Advanced Lecture)Ⅰ

曜日・講時：前期集中 その他 連講

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：高橋 早苗

コード：LM98806 科目ナンバリング：LJS-LIT601J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：日本文学形成論研究演習Ⅳ】

1. 授業題目：『夜の寝覚』の探究
2. Course Title (授業題目)：Study on "Yoru no Nezame"
3. 授業の目的と概要：平安時代後期に成立した『夜の寝覚』は、ある特徴のためにあまり光が当てられない時期があったものの、現在では多くの読者を惹きつけている。本授業では、『夜の寝覚』第一部を丹念に読み進める形をとりながら、作品の構造・表現へのこだわり・人物造型・先行作品の受容など、複数の観点によって作品を検討・分析する。これらを通じて、『夜の寝覚』という作品がいかに独自の世界を創り上げていったかを明らかにする。『夜の寝覚』の魅力に少しでも迫りたい。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)："Yoru no Nezame," written in the latter half of the Heian period, has attracted many readers, although it was sometimes not exposed to much light. In this class, while carefully reading the first part of "Yoru no Nezame", we will examine and analyze the work from various perspectives such as the structure of the work, attention to expression, character modeling, and acceptance of past works. Through these, I would like to clarify how the literary work "Yoru no Nezame" creates a unique world, and approach the charm of "Yoru no Nezame" as much as possible.
5. 学習の到達目標：
 - ①古典文学研究に有効な複数の観点（表現・人物造型・受容など）を実践的に理解する。
 - ②『夜の寝覚』の文学史上における位置づけや、現存する平安後期物語の特質を理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：1) Practically understand multiple viewpoints (expression, character modeling, acceptance, etc.) that are effective for classical literature research.
2) Understand the position of "Yoru no Nezame" in literary history and the characteristics of the existing late Heian period story.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 平安時代文学史概論
 2. 平安後期物語について
 3. 『夜の寝覚』読解—冒頭場面
 4. 『夜の寝覚』読解—天人の予言①
 5. 『夜の寝覚』読解—天人の予言②
 6. 『夜の寝覚』読解—男君、登場
 7. 『夜の寝覚』読解—それぞれの思惑
 8. 『夜の寝覚』読解—恋慕と動揺
 9. 『夜の寝覚』読解—真実を知る日①
 10. 『夜の寝覚』読解—真実を知る日②
 11. 『夜の寝覚』読解—中の君の思いと再会
 12. 『夜の寝覚』読解—姉・大君
 13. 『夜の寝覚』読解—ふるさとをあとにして
 14. 『夜の寝覚』読解—その後
 15. 総括(順序や内容は場合によって変更することがあります)
8. 成績評価方法：
 - ①各回講義後に提出を求める小レポート(40%)と②最終レポート(60%)
9. 教科書および参考書：

こちらで用意したプリントを配布する。
10. 授業時間外学習：平安後期の文学作品にどんなものがあるか調べる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：日本文芸形成論特論Ⅱ／ Study of Formation of Japanese Literature(Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

Semester：2 学期 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰

コード：LM23402 科目ナンバリング：LJS-LIT602J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：日本文芸形成論研究演習Ⅳ】

1. 授業題目：(歴史) の表現史
2. Course Title (授業題目)：Research on History which Described Various Literary and Cultural History
3. 授業の目的と概要： 演習形式を取り入れた授業を通して、文学、文化、社会を語るさまざまな歴史叙述（研究史も含まれる）がどのように形成されてきたのかというその表現史について考究する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will clarify the mechanism of expressions of history which described literary and cultural history.
5. 学習の到達目標：
文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための高度で専門的な読解力、分析力、洞察力を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students acquire advanced and specialized ability necessary to think about literature, culture and society creatively.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. はじめに
 2. 歴史を語る表現史とは一
 3. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 4. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 5. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 6. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 7. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 8. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 9. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 10. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 11. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 12. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 13. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 14. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 15. まとめ
8. 成績評価方法：
授業時の発表 [60%]・授業への参加 [40%]
9. 教科書および参考書：
テキストは、特に指定しない。参考書は、授業時に随時紹介する。
10. 授業時間外学習： 各回の授業で取り上げるさまざまな記述をあらかじめ精読して授業に臨むこと。また、授業を通して関心を持った問題について、幅広く考察を深めて行くことが重要である。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：日本文芸形成論特論Ⅲ／ Study of Formation of Japanese Literature (Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：仁平 政人

コード：LM13402 科目ナンバリング：LJS-LIT603J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：日本文芸形成論研究演習Ⅲ】

1. 授業題目：「翻訳」の文芸学

2. Course Title (授業題目)：Literary studies on "translation"

3. 授業の目的と概要：この授業では、広義の「翻訳」という観点から、古典から近現代に至るまでの日本文学の生成および流通・受容にまつわる諸問題について検討する。

授業は演習形式で、受講者は (1) 自身の関心に基づく報告、(2) 「翻訳」に関する文献の検討のいずれかを行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this class, we will examine the issues of the generation, distribution, and acceptance of Japanese literature from the classical to modern era, from the perspective of "Translation" in a broad sense.

In the class, the students either (1) present their research based on their own interests or (2) examine documents related to translation.

5. 学習の到達目標：

資料の読解力を高めるとともに、日本文化および批評理論についての教養を蓄え、自身の研究に応用する視点を獲得する。また、口頭発表と討議を通してディベート力を養う。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：To improve reading comprehension of materials and to acquire a knowledge of Japanese culture and critical theory and to apply it to one's own research.

Develop debate skills through oral presentations and discussions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

*この授業はオンラインで実施します。

1. ガイダンス

2. 担当者による口頭発表と討論

3. 担当者による口頭発表と討論

4. 担当者による口頭発表と討論

5. 担当者による口頭発表と討論

6. 担当者による口頭発表と討論

7. 担当者による口頭発表と討論

8. 担当者による口頭発表と討論

9. 担当者による口頭発表と討論

10. 担当者による口頭発表と討論

11. 担当者による口頭発表と討論

12. 担当者による口頭発表と討論

13. 担当者による口頭発表と討論

14. 担当者による口頭発表と討論

15. 担当者による口頭発表と討論

8. 成績評価方法：

授業における発表 (60%)・授業への参加 (出席・質疑応答) (40%)

9. 教科書および参考書：

参考文献は授業中に適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：授業で取り上げるテキストを受講者全員が事前に精読しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：日本文芸形成論特論Ⅳ／ Study of Formation of Japanese Literature(Advanced Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：押野 武志

コード：LM98807 科目ナンバリング：LJS-LIT604J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：国文学特論Ⅲ】

1. 授業題目：日本探偵小説の形成と展開
2. Course Title (授業題目)：Formation and development of Japanese detective novels
3. 授業の目的と概要：日本における探偵小説の成立と展開を戦後から今日に至るまで通史的に辿る。大衆文学／純文学の線引きと再編の過程における探偵小説というジャンルの形成要件、探偵小説の形式化・理論化に伴う諸問題、隣接する諸ジャンルや視覚メディアとの相互交渉などを視野に収めながら、新興ジャンルとしてのミステリの様相を多角的に検討する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this class, we will trace the generation and development of detective novels in Japan from the postwar period to the present day. Focusing on the role of detective novels in the process of reorganization of popular literature and pure literature, problems associated with the theorizing of detective novels, and mutual negotiations with other genres, we will examine the aspect of mystery as an emerging genre from various angles.
5. 学習の到達目標：
日本の探偵小説の歴史を学びながら、文学テキストと歴史的なコンテキストとの相互葛藤的な関係性を理解し、文学研究の対象と方法論を見直すことを目指す。さらに、本格探偵小説のゲーム性やトリックといった論理的な思考法と引用やパロディといった小説美学との関係性を理解し、言語芸術としての探偵小説の特質を捉え直す。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：While studying the history of Japanese detective novels, we aim to understand the complex relationship between literary texts and historical contexts, and to reconsider the objects and methodologies of literary research. Furthermore, we will understand the relationship between the logical way of thinking of detective novels and novel aesthetics such as quotations and parodies, and recapture the characteristics of detective novels as linguistic art.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 ガイダンス——日本における西欧探偵小説受容
本講義の目的と概要を提示する。また、戦後の本格ミステリブーム以降のミステリ史を展望するにあたって、その前史と西欧における探偵小説の成立の背景を概観する。
 - 2 本格と変格の闘争
戦前の江戸川乱歩の本格から変格ミステリへの転回や、探偵小説芸術論争などを追いながら、日本のミステリ成立の特殊性を考察する。
 - 3 戦後本格ミステリ再検討
横溝正史・坂口安吾らの本格ミステリの特質を検討する。
 - 4 戦後文学としてのミステリ
戦争という大量死の経験がミステリに与えた影響力の射程を考える。乱歩を痛烈に批判した、天城一のミステリ観とその実践をみる。田村隆一をはじめとした『荒地』派詩人たちのミステリ観と詩作との関係性についても言及する。
 - 5 読者への挑戦①
叙述トリックの実践例に関する小レポートを課す。
 - 6 松本清張の登場
清張の諸作品から、社会派ミステリの特質とその影響力について考察する。
 - 7 純文学変質論争の周辺
清張評価に関するミステリと純文学をめぐる新たな再編の動きを、横光利一「純粹小説論」から辿り直す。
 - 8 アンチ・ミステリの系譜
中井英夫『虚無への供物』の一つの到達点を明らかにする。後続の竹本健治『匣の中の失楽』などと共に、ミステリの形式化とメタミステリへの志向性を考察する。
 - 9 新本格以降の展開
島田荘司『占星術殺人事件』以降の本格ミステリ再評価の流れを追う。東野圭吾・綾辻行人・折原一・法月綸太郎・有栖川有栖・宮部みゆき・北村薫・山口雅也・我孫子武丸らのデビュー作を概観する。
 - 10 読者への挑戦②
叙述トリックの実践例に関する小レポートを課す。
 - 11 京極夏彦以後
京極夏彦『姑獲鳥の夏』の衝撃と、その流れをくむメフィスト賞受作家(清涼院流水・舞城王太郎・佐藤友哉・西尾維新ら)の特質を分析する。
 - 12 本格形式の臨界点
「後期クイーン的問題」と命名された、ミステリにおける「ゲーデル問題」を、探偵像の変容から再検討する。
 - 13 フラット化するミステリ
オタク文化とミステリとの親和性やSFの設定・特殊ルール下におけるミステリの登場の背景を探る。グローバリズムにおけるミステリの位置づけと役割について考察する。

1 4 村上春樹とハードボイルド

日本におけるハードボイルド受容の特殊性を、村上春樹作品を通して考える。

1 5 総括——震災後文学としてのミステリ

本講義を総括する。また、3.11以降のミステリの想像力の行方について新たな展望を拓く。

8. 成績評価方法：

授業への参加態度 (30%)・レポート (70%)

9. 教科書および参考書：

教科書：指定しない。

参考書：押野武志他共編『日本探偵小説を読む』(2013年、北海道大学出版会)、同『日本探偵小説を知る』(2018年、北海道大学出版会)

1 0. 授業時間外学習： 講義で取り上げる予定の作品・資料は、事前に提示するので、各自熟読した上で講義に臨むこと。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

科目名：日本文学総合演習Ⅰ／ Japanese Literature(Advanced Seminar)Ⅰ

曜日・講時：前期 火曜日 4講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰・仁平 政人

コード：LM12401 科目ナンバリング：LJS-LIT605J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：国文学研究演習Ⅰ】

1. 授業題目：日本文学史の考究とその論述

2. Course Title (授業題目)：Research of History of Japanese Literature

3. 授業の目的と概要： 論文作成の実践にもとづく日本文学の作品、表現についての演習形式の授業を通して、個別の作品、表現の特質を明らかにし、その意義を広く文学史、文化史の中に位置づけて行く。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will clarify the characteristics of individual expressions in Japanese literature works by practicing the writing of treatises, and position their significance widely in the history of literature and culture.

5. 学習の到達目標：

日本文学を着実に考究し、論述し、歴史的に意味づけるための高度で専門的な問題発見力、分析力、構想力を総合的に習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students comprehensively acquire advanced and specialized problem-finding ability, analytical ability, and conceptual ability necessary for steadily studying, discussing, and historically making sense of Japanese literature.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 考察発表とそれにもとづく意見交換

3. 考察発表とそれにもとづく意見交換

4. 考察発表とそれにもとづく意見交換

5. 考察発表とそれにもとづく意見交換

6. 考察発表とそれにもとづく意見交換

7. 考察発表とそれにもとづく意見交換

8. 考察発表とそれにもとづく意見交換

9. 考察発表とそれにもとづく意見交換

10. 考察発表とそれにもとづく意見交換

11. 考察発表とそれにもとづく意見交換

12. 考察発表とそれにもとづく意見交換

13. 考察発表とそれにもとづく意見交換

14. 考察発表とそれにもとづく意見交換

15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業における発表 [60%]・授業への参加 [40%]

9. 教科書および参考書：

テキストは、特に指定しないが、各回で考察対象とする作品のテキストを各自で用意する。

参考書は、随時紹介する。

10. 授業時間外学習： 授業で取り上げる作品とあらかじめ配布された資料を精読し、質問事項を用意しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

この授業はⅠ・Ⅱを連続して履修すること。

科目名：日本文学総合演習Ⅱ／ Japanese Literature(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 4講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰・横溝 博・仁平 政人

コード：LM22402 科目ナンバリング：LJS-LIT606J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：国文学研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：日本文学史の考究とその論述

2. Course Title (授業題目)：Research of History of Japanese Literature

3. 授業の目的と概要： 論文作成の実践にもとづく日本文学の作品、表現についての演習形式の授業を通して、個別の作品、表現の特質を明らかにし、その意義を広く文学史、文化史の中に位置づけて行く。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will clarify the characteristics of individual expressions in Japanese literature works by practicing the writing of treatises, and position their significance widely in the history of literature and culture.

5. 学習の到達目標：

日本文学を着実に考究し、論述し、歴史的に意味づけるための高度で専門的な問題発見力、分析力、構想力を総合的に習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students comprehensively acquire advanced and specialized problem-finding ability, analytical ability, and conceptual ability necessary for steadily studying, discussing, and historically making sense of Japanese literature.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 考察発表とそれにもとづく意見交換
2. 考察発表とそれにもとづく意見交換
3. 考察発表とそれにもとづく意見交換
4. 考察発表とそれにもとづく意見交換
5. 考察発表とそれにもとづく意見交換
6. 考察発表とそれにもとづく意見交換
7. 考察発表とそれにもとづく意見交換
8. 考察発表とそれにもとづく意見交換
9. 考察発表とそれにもとづく意見交換
10. 考察発表とそれにもとづく意見交換
11. 考察発表とそれにもとづく意見交換
12. 考察発表とそれにもとづく意見交換
13. 考察発表とそれにもとづく意見交換
14. 考察発表とそれにもとづく意見交換
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業における発表 [60%]・授業への参加 [40%]

9. 教科書および参考書：

テキストは、特に指定しないが、各回で考察対象とする作品のテキストを各自で用意する。

参考書は、随時紹介する。

10. 授業時間外学習： 授業で取り上げる作品とあらかじめ配布された資料を精読し、質問事項を用意しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

この授業はⅠ・Ⅱを連続して履修すること。

科目名：日本古典文学研究演習 I / Study of Japanese Classical Literature (Advanced Seminar) I

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：横溝 博

コード：LM21402 科目ナンバリング：LJS-LIT607J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国文学特論 I】

1. 授業題目：『浜松中納言物語』の研究

2. Course Title (授業題目)：Study of "Hamamatsu Chūnagon Monogatari"

3. 授業の目的と概要：『浜松中納言物語』を輪読する。担当者は割り当てられた範囲の【梗概】および【考察】をレジュメとしてまとめ、それを資料として用意し、事前に配布した上で発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、ブラッシュアップしていくことで、物語の読解力を高めていくことを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this class, you will read the volume captioned from "Hamamatsu Chūnagon Monogatari". The person in charge summarizes the [abstract] and [consideration] of the assigned range as a resume, prepares it as a material, distributes it in advance, and announces it. The aim is to improve the reading comprehension of the story by reviewing and brushing up the issues raised by the presenters with all participants.

5. 学習の到達目標：

『浜松中納言物語』を精読することで、(1) 物語の虚構の方法や人物造型のありよう、語り、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2) 諸注釈、各種辞典(事典)類の活用の仕方を学び、作品読解に関わる基本的な知識を習得する。以上を通して、物語を「読む」力を高めることで、課題に研究的に取り組むための基本的な知識と技能を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：By carefully reading "Hamamatsu Chūnagon Monogatari", you will deepen your understanding of the fictional method of the story, the way the figure is modeled, the style of expression including narrative and waka poems, and the structure of the story. Learn how to use various annotations and various dictionaries, and acquire basic knowledge related to reading comprehension of works. Through the above, by improving the ability to "read" the story, you will acquire the basic knowledge and skills to tackle the problem researchfully.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

01. ガイダンス (発表者及びローテーション決定)
02. 講義 (『浜松中納言物語』の成立、散逸首巻の内容、諸本、影響作について)
03. 巻一の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
04. 巻一の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
05. 巻一の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
06. 巻一の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
07. 巻一の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
08. 巻一の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
09. 巻二の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
10. 巻二の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
11. 巻二の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
12. 巻二の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
13. 巻二の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
14. 巻二の自由発表×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
15. 巻二の自由発表×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ

8. 成績評価方法：

授業時の発表および期末レポート (発表のまとめ) の内容 [60%]、授業への参加 (質疑応答を含む) [40%]

9. 教科書および参考書：

【テキスト】池田利夫校注・訳『新編日本古典文学全集 27 浜松中納言物語』(小学館、2001 年)を用いる。

【参考書】辛島正雄『御津の浜松一言抄 — 『浜松中納言物語』を最終巻から読み解く一』(九州大学出版会、2015 年)。また、

神田龍身『平安朝物語文学とは何か:『竹取』『源氏』『狭衣』とエクリチュール (MINERVA 歴史・文化ライブラリー 36)』
(ミネルヴァ書房、2020年)。その他、校本、研究書の類、参考文献は随時紹介する。

10. 授業時間外学習: 毎回の輪読箇所が決まっている上、資料が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。授業での質疑応答はディスカッションやコメントのトレーニングとなるよう期している。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他: なし

- ・本演習は、第5 Semesterと第6 Semesterを合体して、後期開講の授業としています。そのため、2時間とも連続して履修してください。
- ・物語の展開を先取りせず、物語の筋をたどりながら読むことの面白さや発見、興味を大事にしていきます。

科目名：日本古典文学研究演習Ⅱ／ Study of Japanese Classical Literature(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 月曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：横溝 博

コード：LM21502 科目ナンバリング：LJS-LIT608J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：国文学特論Ⅱ】

1. 授業題目：『浜松中納言物語』の研究

2. Course Title (授業題目)：Study of "Hamamatsu Chūnagon Monogatari"

3. 授業の目的と概要：『浜松中納言物語』を輪読する。担当者は割り当てられた範囲の【梗概】および【考察】をレジュメとしてまとめ、それを資料として用意し、事前に配布した上で発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、ブラッシュアップしていくことで、物語の読解力を高めていくことを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this class, you will read the volume captioned from "Hamamatsu Chūnagon Monogatari". The person in charge summarizes the [abstract] and [consideration] of the assigned range as a resume, prepares it as a material, distributes it in advance, and announces it. The aim is to improve the reading comprehension of the story by reviewing and brushing up the issues raised by the presenters with all participants.

5. 学習の到達目標：

『浜松中納言物語』を精読することで、(1) 物語の虚構の方法や人物造型のありよう、語り、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2) 諸注釈、各種辞典(事典)類の活用の仕方を学び、作品読解に関わる基本的な知識を習得する。以上を通して、物語を「読む」力を高めることで、課題に研究的に取り組むための基本的な知識と技能を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：By carefully reading "Hamamatsu Chūnagon Monogatari", you will deepen your understanding of the fictional method of the story, the way the figure is modeled, the style of expression including narrative and waka poems, and the structure of the story. Learn how to use various annotations and various dictionaries, and acquire basic knowledge related to reading comprehension of works. Through the above, by improving the ability to "read" the story, you will acquire the basic knowledge and skills to tackle the problem researchfully.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

01. ガイダンス (発表者及びローテーション決定)
02. 講義 (『浜松中納言物語』の成立、散逸首巻の内容、諸本、影響作について)
03. 巻一の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
04. 巻一の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
05. 巻一の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
06. 巻一の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
07. 巻一の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
08. 巻一の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
09. 巻二の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
10. 巻二の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
11. 巻二の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
12. 巻二の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
13. 巻二の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
14. 巻二の自由発表×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
15. 巻二の自由発表×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ

8. 成績評価方法：

授業時の発表および期末レポート(発表のまとめ)の内容 [60%]、授業への参加(質疑応答を含む) [40%]

9. 教科書および参考書：

【テキスト】池田利夫校注・訳『新編日本古典文学全集 27 浜松中納言物語』(小学館、2001年)を用いる。

【参考書】辛島正雄『御津の浜松一言抄 — 『浜松中納言物語』を最終巻から読み解く —』(九州大学出版会、2015年)。また、

神田龍身『平安朝物語文学とは何か：『竹取』『源氏』『狭衣』とエクリチュール（MINERVA 歴史・文化ライブラリー 36）』（ミネルヴァ書房、2020年）。その他、校本、研究書の類、参考文献は随時紹介する。

10. 授業時間外学習：毎回の輪読箇所が決まっている上、資料が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。授業での質疑応答はディスカッションやコメントのトレーニングとなるよう期している。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

- ・本演習は、第5 Semesterと第6 Semesterを合体して、後期開講の授業としています。そのため、2時間とも連続して履修してください。
- ・物語の展開を先取りせず、物語の筋をたどりながら読むことの面白さや発見、興味を大事にしていきます。

科目名：日本古典文学研究演習Ⅲ／ Study of Japanese Classical Literature(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰

コード：LM14202 科目ナンバリング：LJS-LIT609J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：日本文芸形成論研究演習Ⅴ】

1. 授業題目：『今昔物語集』の表現形成
2. Course Title (授業題目)：Research on Konjaku Monogatari-shu (今昔物語集)
3. 授業の目的と概要： 演習形式の授業を通して、『今昔物語集』の表現形成の問題を、広く文化的、社会的問題とかがかわらせて考察する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will clarify the characteristics of tales in Konjaku Monogatari-shu (今昔物語集), and position their significance widely in the history of culture and society.
5. 学習の到達目標：
文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための高度で専門的な読解力、分析力、表現力を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students acquire advanced and specialized ability necessary to think about literature, culture and society creatively.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 『今昔物語集』についての解説
 2. 『今昔物語集』についての解説
 3. 『今昔物語集』についての解説
 4. 『今昔物語集』についての解説
 5. 『今昔物語集』についての解説
 6. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 7. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 8. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 9. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 10. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 11. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 12. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 13. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 14. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 15. 考察発表とそれにもとづく意見交換
8. 成績評価方法：
授業時の発表およびレポート [60%]・授業への参加 [40%]
9. 教科書および参考書：
テキストは、特に指定しない。参考書は、授業時に随時紹介する。
10. 授業時間外学習： 各回で考察対象となる物語の記述をあらかじめよく読んで授業に臨むこと。また、授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
本演習のⅣも連続して履修すること。

科目名：日本古典文学研究演習Ⅳ／ Study of Japanese Classical Literature(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

semester：2学期 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰

コード：LM24202 科目ナンバリング：LJS-LIT610J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：日本文芸形成論研究演習Ⅵ】

1. 授業題目：『今昔物語集』の表現形成
2. Course Title (授業題目)：Research on Konjaku Monogatari-shu (今昔物語集)
3. 授業の目的と概要： 演習形式の授業を通して、『今昔物語集』の表現形成の問題を、広く文化的、社会的問題とかわらせて考察する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will clarify the characteristics of tales in Konjaku Monogatari-shu (今昔物語集), and position their significance widely in the history of culture and society.
5. 学習の到達目標：
文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための高度で専門的な読解力、分析力、表現力を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students acquire advanced and specialized ability necessary to think about literature, culture and society creatively.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 2. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 3. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 4. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 5. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 6. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 7. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 8. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 9. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 10. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 11. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 12. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 13. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 14. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 15. まとめ
8. 成績評価方法：
授業時の発表およびレポート [60%]・授業への参加 [40%]
9. 教科書および参考書：
テキストは、特に指定しない。参考書は、授業時に随時紹介する。
10. 授業時間外学習： 各回で考察対象となる物語の記述をあらかじめよく読んで授業に臨むこと。また、授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
本演習のⅢから連続して履修すること。

科目名：日本近代文学研究演習 I / Study of Japanese Modern Literature (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：仁平 政人

コード：LM13202 科目ナンバリング：LJS-LIT611J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：日本文芸形成論研究演習 I】

1. 授業題目：近現代文学における「動物」
2. Course Title (授業題目)：Study on "animal" in Japanese Modern Literature
3. 授業の目的と概要：本演習は、明治期から近年にいたる多様な小説について、「動物」の表象という観点を軸に、多様な社会的・文化的なコンテクストを視野に入れて分析を行うことを目的とする。
受講者は、担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて発表する。発表内容を踏まえた全体での討論をとおして、小説の精緻な読解を試みる。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose of this exercise is to analyze various novels written from the Meiji period to recent years, taking into account various social and cultural contexts, based on the concept of "animal".
Students present the results of their analysis of literary works. We try to read the novel in detail through the discussion based on the presentation.
5. 学習の到達目標：
 - (1) 文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。
 - (2) 日本近代文学の多様な展開とその特質について理解を深める。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：(1) To learn how to analyze, present and present literary works.
(2) To deepen students' understanding of the diverse developments and characteristics of Japanese Modern Literature.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この授業はオンラインで実施する。
 1. ガイダンス
 2. ガイダンス 2
 3. 担当者による口頭発表と討論
 4. 担当者による口頭発表と討論
 5. 担当者による口頭発表と討論
 6. 担当者による口頭発表と討論
 7. 担当者による口頭発表と討論
 8. 担当者による口頭発表と討論
 9. 担当者による口頭発表と討論
 10. 担当者による口頭発表と討論
 11. 担当者による口頭発表と討論
 12. 担当者による口頭発表と討論
 13. 担当者による口頭発表と討論
 14. 担当者による口頭発表と討論
 15. 担当者による口頭発表と討論
8. 成績評価方法：
授業における発表とレポート (70%)、授業への積極的参加 (30%)
9. 教科書および参考書：
講義資料として、配布プリントを使用する。その他の関連文献は授業中に適宜紹介する。
10. 授業時間外学習：授業で取り上げる作品を受講者全員が事前に精読しておくこと。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし
本演習は I・II を連続で履修すること。

科目名：日本近代文学研究演習Ⅱ／ Study of Japanese Modern Literature(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：仁平 政人

コード：LM23202 科目ナンバリング：LJS-LIT612J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：日本文芸形成論研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：近現代文学における「動物」
2. Course Title (授業題目)：Study on "animal" in Japanese Modern Literature
3. 授業の目的と概要：本演習は、明治期から近年にいたる多様な小説について、「動物」の表象という観点を軸に、多様な社会的・文化的なコンテクストを視野に入れて分析を行うことを目的とする。
受講者は、担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて発表する。発表内容を踏まえた全体での討論をとおして、小説の精緻な読解を試みる。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this exercise is to analyze various novels written from the Meiji period to recent years, taking into account various social and cultural contexts, based on the concept of "animal".
Students present the results of their analysis of literary works. We try to read the novel in detail through the discussion based on the presentation.
5. 学習の到達目標：
 - (1) 文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。
 - (2) 日本近代文学の多様な展開とその特質について理解を深める。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To learn how to analyze, present and present literary works.
(2) To deepen students' understanding of the diverse developments and characteristics of Japanese Modern Literature.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この授業はオンラインで実施する。
 1. ガイダンス
 2. 担当者による口頭発表と討論
 3. 担当者による口頭発表と討論
 4. 担当者による口頭発表と討論
 5. 担当者による口頭発表と討論
 6. 担当者による口頭発表と討論
 7. 担当者による口頭発表と討論
 8. 担当者による口頭発表と討論
 9. 担当者による口頭発表と討論
 10. 担当者による口頭発表と討論
 11. 担当者による口頭発表と討論
 12. 担当者による口頭発表と討論
 13. 担当者による口頭発表と討論
 14. 担当者による口頭発表と討論
 15. 担当者による口頭発表と討論
8. 成績評価方法：
授業における発表とレポート（70%）、授業への積極的参加（30%）
9. 教科書および参考書：
講義資料として、配布プリントを使用する。その他の関連文献は授業中に適宜紹介する。
10. 授業時間外学習：授業で取り上げる作品を受講者全員が事前に精読しておくこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
本演習はⅠ・Ⅱを連続で履修すること。